

2016 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 1

早川 杏子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

総合日本語 1 では、初級前半の表現を使って簡単な日常会話ができるようになること、身の回りのことについて、ある程度まとまった内容が表現できるようになることを目標とし、日本語の基本的な文法・語彙の知識を基盤とした四技能の活動を行った。

授業は 1 週間に 5 コマで、2～3 コマで 1 つの課の文法・語彙学習を進め、うち 1 コマは作文、聴解と読解は 0.5 コマずつであった。基本的な進め方として、学期の前半は、『みんなの日本語 本冊』Ⅰ・Ⅱの 20 課～27 課、後半では『みんなの日本語 本冊』Ⅱの 28 課～35 課を範囲とし、始めに各課の語彙・文型を導入後、各課最終コマに復習日を設け、運用を重視した自由度の高い活動を行った。そのほか、総合的な運用活動の一つとして、前半と後半の 2 回にわたり、ポスター発表を行った。

2. 授業内容

メインテキストの文法・語彙導入後、各課最終コマに設けてある復習日には、例えば、町の中で見つけた、看板・標識の読み方や意味を日本人に尋ねさせ、クラスメートにそれらを説明する等、できるだけ対面相手や相互の間柄が異なる者同士でのインタラクションの機会が多くなるような活動を通して、学習項目の形式上の運用力だけでなく、間接的に多様な言語スタイルに触れるような活動を組み込んだ。

読解では、「読書ノート」と呼んでいる、読書記録を課題とした。読書ノートには、読む上で初めて出遭った表現と、読んだ感想やコメントを書くことを求めている。読解教材は、『初級で読めるトピック 25』Ⅰ・Ⅱであるが、テキスト内にある問題を解くのは任意にしておき、読書ノートは読む行為とその過程を重視した課題である。

聴解は『聴解タスク』Ⅰ・Ⅱからの抜粋で、作文は、アイデアをアウトライン化したものを学生同士で交換し、相手がアウトラインから作文を書き起こした後、自分で書いた作文と比較をして、リライトするという活動であった。

ポスター発表は、同一のテーマの下、各自がまとめたポスターを、前半はクラス内で、後半はクラス間（2 クラス合同）で各自 20 分間の発表および質疑応答を行った。

3. 成果と今後の課題

成果は、自由度の高い運用活動を取り入れたことで、学生が自信を持って発話することができるようになったことである。一方、作文の取り組みに関しては、アンケートで技術・内容面の充実の声があったことから、この点で改善の余地があると考え